

自然さい害とのくらし

五年

塩田

蒼月

ぼくは、家の近くで土砂くずれ注意のかん板を見た時に、こんなかん板あつたかなと思ひました。

ぼくたちが住んでいる六郷地区は、土砂くずれの起きやすい地区ということ。砂防教室を通し知りました。

ぼくたちは、砂防教室で学んだことがいくつもあります。土砂には、土砂くずれ、地すべり、土石流という三つの種類があり、三つとも六郷地区は起きやすいことを知りました。また、地すべりは、地震で起きやすいことを知りました。

ぼくたちが一年生の時、東日本大震災があり、六郷もはげしくゆれて、ぼくたちは外へひなしました。その時はまづたく地すべりが起きるなんて思つていなかつたけれど、砂防教室で土砂はおそろしいことがとても分かりました。土砂くず

れは、大雨がう起きます。土石流も大雨から起きます。土石流は、土、石がまとまり流れてきます。

また、砂防の仕事のことを聞いた時、ぼくはこれまで気づかなかつたけれど、ぼくたちが知らないところで建設事務所の人かみんなの生活を守っていることを知りました。砂防教室を通して、まず、自分の命は、自分で守ることを学びました。

自分の命は自分で守るということをもう一つの学習で学びました。それは、国語でや、た百年後のふるさとを守るという物語です。

この物語は、浜口儀兵衛という人が、百年後のふるさとを守りたいという気持ちを持って堤防を作る話です。物語の中に地ひび割れという文があり、ぼくはおそろしい場面を想像してみました。でも儀兵衛はそんなこともおそろず人を助けたことを知り、勇気のある人だと思いました。村人たちと儀兵衛は助け合って堤防を作りました。八十八年後、大地震が

来たとき、堤防は村を守り、儀兵衛の願いは、百年後の人たちに伝わりました。他のものによつたよるのではなく、自分で自分を守る意識と、共に助け合う意識が大切だということを書きました。

これらの勉強をして、地震や津波、土砂の被害のおそろしさを知りました。もし、六郷地区に大地震が来たら、儀兵衛みたいに自分で考え行動したいです。